

令和6年10月31日

羽生市議会議長 様

会 派 名 瑞藤会
代表者氏名 田口 聡



行政視察報告書

このことについて、別紙のとおり実施したので報告します。

瑞藤会 令和6年度全国議長会研究フォーラム参加報告書

瑞藤会 田口 さとる

1. 去る令和7年10月9、10日、岩手県盛岡市で開催された全国の市議会議員 2,365人が参加する全国議長会に参加した。
2. 井柳美紀静岡大学教授をコーディネーターとし、土山希美法政大学法学部教授、越智大貴一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事、渡辺嘉久読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局、盛岡市議会議長をパネリストとして、地方議会の課題と主権者教育をテーマにパネルディスカッションが行われた。
3. 私は、議会改革特別委員会の一員として、市内中学生向けの議会出前授業を行っており、参加前は非常に興味を持って臨んだのであるが、コーディネーターの方から、主権者教育は然るべき教育機関が行うべきであって、教育の専門機関ではない我々のような一般議員が携わるべき問題ではない、と言われ非常に残念に感じた。もちろん、我々市議会議員が皆大学の教育課程を履修したものではないことは百も承知であるし、我々が市議であることを盾に、中学教育全般に口を出すものでもないのだが、あまりに議員による主権者教育というものを全面的に否定されたのはショックであった。

現役議員であるから伝えられることは多くあると思うし、市民の方が知らないことも多くある。そのようなことを、専門職である教員の先生方ならば上手に教えられているわけではないと思うし、その結果が昨今の非常に低い地方議員や首長の投票率と言えるのではないだろうか。もちろん、中学生向けに特化した我々が行っている出前授業が当該問題の唯一の解決策というわけではない。そこで、様々な事例、案を検証すべきであるはずで、安易に一つのやり方を否定するのはよろしくないであろう。かと言って、他の有効な方策の提案があったわけでもなく、何とも得るものの少ないディスカッションであった。
4. 地方議会の課題については、色んなところで耳にしたことがあるものが多く、特にこれと言って斬新な、もしくは効果のある解決策が挙げたとは思えなかった。テーマがありきたりなので、さぞかし斬新な意見交換・情報提供があるかと思っていたが、このテーマについても残念な結果であった。
5. 来年度の議長会はこのような顛末にならないよう、運営側の準備には大いに期待したいところである。

以上

第 19 回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡 出席報告

羽生市議会議員 川田真也

令和 6 年 10 月 9 日から 10 日にかけて、岩手県盛岡市で開催された「第 19 回全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡」に参加いたしました。本フォーラムは、全国の市議会議員や議員が一堂に会し、地方議会の果たすべき役割や今後の課題について共に考え、意見を交換する貴重な機会であり、今回も多く示唆に富んだ内容が盛り込まれていました。

会場となった「トーサイクラシックホール（岩手県民会館）」は、盛岡の中心に位置する格式ある施設で、参加者を温かく迎えてくれました。初日の開会式では、開催地・盛岡市議会の遠藤政幸議長が、全国からの来訪者を歓迎する挨拶を述べられ、その後には盛岡の郷土芸能「さんさ踊り」が披露されました。軽快な太鼓のリズムと華やかな衣装に身を包んだ踊り手たちの演舞は、まさに東北の文化と誇りを体現したものであり、会場の空気を一気に和ませてくれました。

開会式後には、菅義偉元内閣総理大臣からのビデオメッセージが上映され、国政と地方政治の連携、そして地方自治の重要性についての言葉が述べられました。特に「地域の未来を形作るのは現場に立つ皆さんの行動である」との言葉は、参加者一人ひとりの胸に強く響いたのではないかと思います。

その後の基調講演およびパネルディスカッションでは、「地方議会の課題と主権者教育」をテーマに、専門家や自治体の実務者が登壇し、地方政治と若者の関わり方について多角的な議論が行われました。主権者教育の重要性が叫ばれるなかで、議会がどのような形で若年層と接点を持つことができるのか、学校教育との連携や議会の可視化、SNS の活用など、多様な視点からの提案がなされました。

2 日目には、「主権者教育の取組報告」と題した課題討議が行われ、伊那市、四日市市、山鹿市の各議会から、具体的な取り組みの事例報告がありました。伊那市では中学校・高校との議会交流授業、四日市市では模擬議会と意見交換会の実施、山鹿市では議会だよりを通じた情報発信の工夫など、それぞれの地域事情に即した活動が紹介されました。報告の中で印象に残ったのは、「若者に政治を“教える”のではなく、関心を持つ“きっかけ”を与えることが何より重要である」との指摘でした。この視点は、議員として地域と接するときにも大切にしたいと思いました。

今回のフォーラムを通じて、主権者教育を単なる若者向けの政治啓発と捉えるのではなく、「市民一人ひとりが地域の課題に当事者として向き合えるように

する教育活動」であるという認識を新たにしました。市議会が果たす役割は、議決機関としての権能行使だけでなく、地域住民との信頼関係の構築や、双方向の情報発信と受信によって民主主義の土台を強化することにもあります。若年層を含め、あらゆる世代と“開かれた議会”として対話を重ねていくことが、地方自治の健全な発展につながると改めて実感しました。

また、全国各地から集まった議員との情報交換も行われて、それぞれの議会が直面する課題には共通点もあれば、地域性に根差した違いもあります。そうした違いを知り、それぞれの工夫や取り組みを学ぶことで、自分たちのまちに活かせるヒントが数多く得られました。特に議会改革、ICT活用、議会基本条例の改正に向けた議論などは、今後の議会運営において早急に検討すべきテーマであると感じました。

最後に、主催者・関係者の皆さま、そして開催地である盛岡市の皆さまの温かいおもてなしに深く感謝申し上げます。2日間にわたるフォーラムは、内容・運営ともに非常に充実しており、全国の議会人にとって実り多い機会であったと確信しています。来年度は札幌市での開催が予定されており、引き続き全国の仲間とともに学びを深め、より良い地方自治の実現に向けて歩みを進めてまいりたいと強く感じています。